



中部大学

中部

大学

民族

資料

博物館

2013

特別

講演

# 素材研究

伝統文化を支える今日の材料

こんにち



特別講演

①

申込制／実演体験希望者は先着申込40名まで  
当日料金要／聴講のみは無料、定員70名

10/11

[金] 14時30分～  
会場：中部大学リサーチセンター



「箔の今日～伝統工芸と食文化」

講師：大平 明子 上智大学

経歴：学習院大学国際文化交流学部学芸員課程・国際文化交流研究科副手  
専門：比較文化論・日本学、文化史（食文化、工芸）  
関連研究：「日本における食用金箔の史的変遷とその意義」

実演指導講師：富澤 誠治 株式会社タジマ 主任（分野／箔）

株式会社タジマ／本社 金沢市 明治30年（1897年）創業  
金箔問屋として開業したのが始まり。金沢を代表する伝統工芸の一つである金箔について、伝統工芸の装飾性とその機能性に着目し、伝統技術の保持とともに、現代における加工製品の開発も同時に行っている。

※今回の講演では、箔貼りの実演の時間を設けて、皆さまが純金箔を実際に体験できる機会をご用意します。

司会：下川 辰彦 日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門者

特別講演

②

申込制／入場無料、定員70名

11/8

[金] 15時00分～  
会場：中部大学リサーチセンター



「現代日本画の胡粉と顔料について  
～貝殻から生み出す白色の美」

講師：中川 晴雄 ナカガワ胡粉絵具株式会社 代表取締役（分野／胡粉・顔料）

ナカガワ胡粉絵具株式会社／京都府宇治市 明治26年（1893年）創業  
水車による胡粉製造を開始したことが始まり。  
現代では日本画用絵具を主に製造し、国内シェア80%を占める。  
胡粉は貝殻を原料として古来から用いられてきた天然材料である。  
日本画のほか、日本人形や伝統玩具にも古くから用いられており、日本の伝統文化の姿を継承するために、材料の方面から支える役目を持つ。  
天然材料は現代では稀少価値となっていることから、胡粉とともに、絵具の開発に取り組んでいる。

※今回の講演では、材料の原料となる貝殻や岩絵具の岩石等を用いて天然材の性質を解説いただきます。

司会：下川 辰彦 日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門者

「扇面古写経冊子絵」東京国立博物館本（模写）  
模写制作者：鈴木 佐和子（日本美術院院友）

「平治物語絵巻（六波羅行幸巻）」東京国立博物館本（模写）  
模写制作者：濱島 司（日本美術院院友）

中部大学民族資料博物館  
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

愛知県春日井市松本町1-200 TEL 05668-51-61 FAX 05668-51-61-64 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp http://www3.chubu.ac.jp/museum/

【開館時間】9時30分～16時30分（土曜・日曜・年末年始・大学が定める休日 ※行事開催日開館予定）【入館料】無料